方デハナカラウカ。

一方又、篩骨蜂窠炎ハ、上顎竇炎カラハ容易ニ起リ易イモノデアルカラ、之丈ガ一緒ニ侵サレテキル例ヲ、上顎竇ノミ侵サレテキルモノト同一意味ニ考ヘタトシテ、上ノ統計ヲ見テモ、10%ト6%トナリ依然トシテ所謂齒性蓄膿症ノ大部分ハ、豫メ變化ノアツタ粘膜ニ起ルト考ヘラレル。之ハ豫メ變化ノナイ竇粘膜ニハ、損傷ナドガ起ツテモ、又感染シタ齒ナドガ落込ンデモ高々、「レントゲン」寫眞ニハ現レナイ程度ノ限局性ノ變化ヲ起スノミデアルト言フ前述ノ自分ノ經驗ニ一致スル。

茲ニ問題ナノハ、「レントゲン」寫眞ニ出ル副鼻腔ノ陰影ガ、何ノ程度迄、粘膜ノ變化ヲ意味スルモノトナシ得ルカト云フ事、及ビ夫レガ粘膜ノ變化トシテモ、如何ナル種類ノ變化デアルカト云フ事デアル。第1ノ問題ニ就テハ、手術所

見ト比較シテノ自分ノ經驗カラ推シテ、大部分ハ粘膜ノ變化ニ歸シ得ルト言フコトヲ信ズル。第2ノ問題ニ就テハ、先ヅ先天性ノ粘膜ガ厚イ事ガアリ得ル事、次ニ非染性ノ「アレルギー」性反應ノアリ得ベキ事ヲ考ヘネバナラナイ。而シテ此「アレルギー」性變化ハ、單ナル漿液性ノ炎症ト區別スル事が困難デアリ、之ガ傳染性炎症ノ下地トモナル事ヲ考ヘラレル。丁度中耳ノ漿液性炎症ガ、其傳染性炎症ノ下地トナル様ニ。自分ハ茲デ、嘗テ經驗シタ、胎兒ノ鼻ニ化膿ノ在ツタ例ヲ想起スル。然ラバ齒性蓄膿症ノ大部分ニ於テ下地トシテ豫メ存スベキ病變ハ Voss ノ考ヘタ様ナ鼻性傳染ニ限ルト言フ事ハ出來ナイデアラウ。又上述ノ少數例ノ經驗ニ依ルノデハアルガ、純齒性蓄膿症（從來考ヘラレタ様ナ）モアリ得ルト考ヘラレル。之等ノ點ニ於テ自分ハ Voss ト意見ヲ異ニスルノデアル。

「サ」行發音不能症ノ治療ニ於ケル經驗

Erfahrungen bei der Behandlung von Sigmatismen.

von Dr. Desider Weiss.

[Aus practica oto-rhino-laryngologica Vol. 1, S. 248.]

「サ」行發音不能者ノ大部分ハ治愈シ得ルモノデアルカラ、其治療法ト言フカラニハ、今迄餘リ治療ノ效果ノナカツタ例ニ適シ、又今迄ノ方法ヨリ早く、容易ニ効果が上ルト言フノデナクレバナラナイ。茲ニ報告スルノハウィーン大學ノ言語矯正部ニ於テ普ク良好ト認メラレタ經驗デアル。然シ之ガ唯一ノ良法ダト言フノデハナイ。

S系ノ音 (S, Z, Sch) ハ各國語ニ依リ、又方言ニ依リ種々ニ發音サレル。故ニ自分ハ今、獨

逸語ノウィーンニ於ケル經驗ニ限ツテ論ジルガ、其他ノ言葉ヘノ應用ハ其構音ノ差異ヲ念頭ニ置イテナサレタイ。

Sハ最も發音上ノ不正確ヲ來タシ易イ事ハ、吾吾ノ所デ見タ訥者 (Stammelnde) 又ハ夫レト結合シタ言語障礙者總數 500 例ノウチ、446 例ニ S 系ガ不正確デアルコトヲ見テモ判ル。之ハ Sヲ發スル口ノ形ガ最も融通性ニ乏シク、少シノズレモ直グ耳立ツテ聞エル爲メトサレテキル。Barzinski ハ之ヲ Sノ生理的範圍ガ小サイ

ト言フ表現法ヲ用ヒテキルガ、Sニ關シテハ生理的云々ト言フ事ハ用ヒヌガヨイ。語學的ニ正確カ否カハ生理的カ否カニ依テ定マルノデナク。習慣ガ決メルノデアル。A音等ハ其發音ニ際シ、附屬管ニ於ケル機能過多が見ラレルコトアリ。夫レハ非生理的ト言フ表現ヲ用ヒルコトガ出來ルガ、夫レニシテモ此場合、語學的ニハ正確タルヲ失ハナイノデアル。

齒列ノ不正ガ「サ」行發音不能症ノ原因トナルカ否カニ就テウィーン臨牀デハ、餘リ意味ガナイト言フ結論ニ達シタ。唯次ノ事ハ言ヘル。Sハ正中線デ作ラレルカラ、正中線上ノ齒列不正ハ之ガ原因トナリ得ルト。

Barzinski ハ之ガ齒列不正トヨク一緒ニ來ル事實ヲ證明シテ、Rachitisヲ兩者ノ共通原因ト考ヘ。一方ニ齒ノ異常、他方ニ筋肉ノ共働機能障礙ヲ來セルモノトシテキル。上述セル様ナSニ就テノ微妙ナ共働作用ハ正中線ニ來ル種々ノ異常ニ依ツテ可ナリ損ハレル。又一方、筋肉ノ弱イ事、障礙サレテキル事モ原因トナル。孰レニセヨ。S音ノ障礙ハ齒列ヨリモ、共働作用ガ平滑ニ行クカ否カニ關スルノデアル。夫レガ證據ニハ齒列不正ヲ其儘ニシテオイテモ、教育ニヨリ矯正ガ出來ル。又 Gumpertz, Román, Kopp 等ガ「サ」行發音不能者ノ多數ニ於テ、其他ノ音ニモ不正ガアル事ヲ述ベテキルノモ、以上ノ考ノ正シイ事ヲ裏書スルモノト思フ。之ハ治療ノ上ニ注意スベキ事デアル。

吾々ノ所デナス治療方針ハ次ギノ様ニ總括デキル。即チ既存ノ誤ツタ音ヲ正スト言フノデナク、全然新シイ出發點カラ出ナホス。發音ト言フノデナク、單純ナ息ヲ吹き出スト言フ事カラ出發スル。此場合、Sノ音ハ仲々出ナイガ、之

ヲ早クSニサセヤウトスルト。以前ノ誤ツタ共働作用ヲ使ツテシマツテ、却ツテ效果ガナイ。種々ト息ヲ吹カセテ、Sが出タ時、何回デモ正確ニ出ルヤウニサセ。ソコデ之ヲ以前ノ不正ナSニ置換ヘルノデアル。正スノデナク置換デア。矯正用器具ハナルベク用ヒヌガヨイ。唯特ニ治リニクイ時ニハ、「サ」行發音不能症板ノ様ナモノヲ用ヒル。舌ニ溝ヲ作ル事ノ觀念ノ出來ナイ患者ニハ、舌ヲ出サセテ溝ヲ作ラセ。夫レヲ齒列ノ中ニ引込メル方法ヲトル。

全練習期間中、Sヲ言ハウトスル氣ヲ起サセズ。唯息ヲ舌ト齒ノ間カラ吹き出ス事ヲ念頭ニオカシメル。夫レヲ結局Sヲ發音サセル爲メト患者自身ニハ分ツテキテモ、息ノ吹き方ガストナル迄ハ、夫ヲスト呼バヌ事が大切デアル。

此方法ハ全く心理的方法デアリ。無理ニ齒列ヲ閉デサセテ矯正スル等ノ機械的方法ヲ避ケテキル。斯カル機械的方法ハ舌ノ位置ヲ變ヘル丈デ構音ノ矯正ニハナラナイ。

Fröschels ハ練習ハ短時間ヅ、繰返し行ヘト教ヘル。一度ニ長ク續ケルト注意ガ散リ、機械的ニナル。之ハ禁物デアリ。特ニ初期ニ於テサウデア。又一度出タ正シイ音ノ出シ方ヲ記憶サセル爲メニハ、注意ガ充分ナル事が必要デア。夫レニハ正シイ音が出タナラソコデ練習ヲ中止シ、30分以内ニ又行ハセル。然ラズシテ尙ホ續ケルト、音ガ正シク出セナクナツテシマヒ、今出シタ正シイ方法ノ薄弱ナ記憶ハカキ亂サレテシマフ。初メハ正シイ音ハ寧ロ偶然ニ出ルノデアルガ、此偶然ニ關スル記憶ハ、此様ニシテ強メラレテ行ク。

次ニ其細カイ方法ヲ述ベル。

Fröschels ノ下音法ト名付クルモノデア。患

者ニ下ヲ短ク發音サセツ、醫師ハ兩手ノ拇指示指ヲ患者ノ上下脣ノ間ニ入レテ之ヲ開ク。次ニ患者自身ノ指デ之ヲサセル。次ニハ指ヲ用ヒズニ脣ヲ開カセル。此脣ト齒ノ位置ハS音ノ位置デアルカラ。同時ニ此齒ノ間ノ、嚴密ニ眞中カラ息ヲ吹き出サセル。此息ハ、ナルベク鋭ク細イ氣流トナル様ニ努メサス。前ニ釣ルシタ紙片デモ吹きツケル様ナ氣持デアル。之ニハ舌ヲ加減スルノデアル。トモスルト舌ヲ齒ニ強クツケ過ギ易イカラ。息ヲ鋭クスルノハ、漸進的ニ弱イ方カラ強メテ行カセル。

TカラSニ入ル方法モ從來行ハレタガ、上述ノ方法ニ、Tノ利用ヲ結合サセルトヨイ。即チT, TE, TA 等ヲ其音ノ後ニツケ加ヘル。此際SカラTヘノ移リ行キハ、ナダラカナル様ニ努メル。難聴者ニハ上述ノ方法丈デハ完全ナSノ概念ヲ得ラレナイカラ。Tカラ出發スル。又重篤ナ器質的障礙(口蓋破裂ノ如キ)ガアレバSTヲ極メテ強ク發音サセル。

如上ST等ガ練習シ終ツタナラバ、其前ニ母音ヲツケテASTA, ESTE等ヲ發セシメル。此時期ニハ多少鋭クナリ過ギルノハヨイガ。舌ヲ餘リ齒ニオシツケルノハ宜シクナイカラ注意スル。茲デ初メテ夫レガ正シイSノ音デアル事ヲ教ヘル。次ニSヲ離シテ發音サセル。

之ガ出來タナラ、Sノ前ニ母音ヲツケル丈ノES, ASヲ言ハセル。之ハ愚鈍者、吃音者ニハ仲々困難デアルカラ。ハジメ離シテ發音サセ。次第ニ間ヲ縮メサセル。

Sノ後ニ母音ヲツケル事ガ困難ナ時ニハS-HA, S-HEヲ言ハシメル。然シ無響音(stimmloser Laut)カラ有響音(stimmhafter Laut)ニ移ルノハ仲々難カシイカラ。初メハ囁語デ言ハセ

ルノデアル。斯クシテ夫レガ普通ニ出ル様ニナツタ時、S-HA, S-HA, S-HAヲ續ケテ早ク云ハス。

以上ノ訓練後初メテ意味ノアル語ヲ言ハセル様ニスル。器用ナ患者デハ、FカラFSヲ抜イテSニ入ル事ガアルガ、之ハ稀デアル。然ルニ一方又、之モ甚ダ稀デハアルガ、非常ニ頑症デ「サ」行發音不能症板ヲ要スルモノガアル。之ハ最モヨイノハ、溫湯デ柔クナル四半圓ノ形ヲシタ板デ、之ヲ先ガ前ニ向フ様ニロニ入レ、齒ヲカミ合セテ齒跡ヲツケ、其スグ後ノ正中線ニ小サク穴ヲアケ、コハカラ息ヲ吹き出スヨウニ舌ノ形ヲ工夫サセルノデアル。

又、極メテ不器用ナ患者デ醫師ノ意向ノ更ニ通ジナイ時ニハ、所謂上部S (oberes S) ナルモノヲ出サシメル。夫レハ舌端ヲ木笥デ上ニ押シテヤルノデアル。(舌端ヲ上ニ擧ゲル時ハ、ココデ氣流ガ細クナリ、舌端ヲ前齒ニ近クスル時ハ舌背部デ氣流ヲ細メル事トナルノデ。前者ヲ舌端性S (dorsales S)、後者ヲ舌背性S (apicales S) ト呼ブ人ガアル。

舌端部ノ小サナ異常デモ、溝ヲ作ルヲ妨ゲテ氣流ヲ正シク出ス事ガ出來ズニ、押シツケラレタ様ナ音トナルコトガアル。之ハ特ニ美シイS音ヲ要スル俳優等ニハ困ル事デアル。

又特ニSヲ氣ヲツケテ出ス爲メニ、夫レ許リガ強クナルコトガアル。此時ハ患者ニ出來ル丈聲ヲ小サクシ、5—6歩離レタナラ聞エナイ位ニ話ヲサセル。スルト患者自身ニモ其缺點ガ分ツテ來ルカラ、努メテ矯正サセル。此目的ノ爲メニBöckハFröschelsノAtemessen法ヲ用ヒタ。即チ患者ヲシテ恰モ心地ヨク食事ヲスル様ナ平靜ナ氣持デ會話ニ對セシメルト言フ意圖デア

ル。又寡黙ナ患者ニハ却ツテ嘸語デ強ク喋ラセル方法ヲトル。嘸語デ人ニ解ラセル爲メニハ患者ハ自然ニ鋭ク發音スル様ニナルカラデアル。又習得シタ正シイS音ノ利用ヲ忘レテキルコトガ屢ニアル。此時ハ強イ嘸語ヲ使ハセルカ。又ハ讀物ノS音ノ下ニ「アンダーライン」ヲヒクトカシテ注意ヲ促サガヨイ。外國語ノ本ヲ讀マセルノモ各音ニ注意ガ向フノデヨイ。

Fröschels ハ最近頭ヲ後ヘ傾ケルト、多クハS音ノ口蓋性化(Palatalisierung)が起リ、前ヘ傾ケルト齒間性化(Interdentalität)が起ルト言フ事ヲ確メ、齒間性ノアル患者ニハ頭ヲ後ヘ傾ケサセテSヲ發音サセ、其構音位ヲ變ヘサセズ、頭ヲ復サセル方法ヲ考ヘタ。自分ハ此追試ノ際、S音ヲ發スル際ノ下顎ノ位置ニ關シテノ知見ヲ得タ。最初ハS音ノ時ハ下顎ハ前ニ出ルト考ヘラレテ居タ。Fröschels ハ之ニ對シテ、S音ヲ發スル際唇ヲ開クガ、下顎ガ前ニ出ルノハ唇ヲ開ク際ニ下顎ガ出ル人ニ限ルノデアツテ人ニ依ツテハ唇ヲ開ク際下顎ハ必ズシモ出ナイノデアリ、其人デハS音ヲ發スル際モ、下顎ハ出ナイト言フ事デアル。之ニハ Meder, Reichbach, Gutzmann 等ノ反對ガアツタガ、1933年 Nadoleczny 等ガ Fröschels ノ考ヲ正當ヅケタ。

自分ノ見タS音訥者デハ、大部分ハ唯唇ヲ開イタ時ト、S音ヲ發スル時トハ、下顎ノ位置ガ違ツタノデアル。之ニ唯唇ヲ開イタ位置デSヲ發センメルト、正シイ乃至ハヨリ正確ナS音が出タ。之等カラ考ヘテ自分ハ、患者ガS音ヲ發ス

ル際ノ下顎ノ位置ヲ云々スルニハ、第一ニ唇ヲ開カセテ見ネバナラナイト言フ事ヲ稱ヘタイ。Sガ出來レバZハ問題デナイ。Schニ就テ少シク述ベレバ、之ハ蒸氣機關ノ音カラ始メルノガヨイ。Fröschels ハL音ノ時、舌ヲ少シ上ニ擧ゲラセルト云フ。又既ニ習得シタS音ヨリ漸次舌端ヲ後ニ引カセル。子供ノ時ハ時ニ舌壓子デ之ヲ押シテヤルトヨイ。此時舌壓子ニハ入レル深サノ目盛ヲツケテオクノデアル。自分ハSchニハ唇ガ前ニ出ルト考ヘルガ、夫レニシテモ餘リ大キナ役割ヲシナイノデ、先ヅ之ヲ氣ニセズ、唇ヲ引イテ舌ヲ正シ、後デ唇ヲ出スコトニスル。然シ實際會話デハ、唇ノ位置ノ絶エザル變化ノ爲メ、此處迄持チ來タスノハ困難デアル。

SトSchトヲ同時ニ矯正シテハナラナイ。同時ニ練習シテヨイノハ、構音ノヒドク違ツタモノニ就テノミデアル。

或種ノ「サ行發音不能症」デハ有響性ノS音ガナイトハ、Fröschelsノ確定シタ所デアルガ、正シイ無響性ノSカラ、有響性ヲ習得スルノハサシテ困難ナ事デハナイ。

「サ」行發音不能症ニ吃音ヤ、騷語症(Poltern)ガ結合シテキル場合ハ如何。第一ノ吃音ハ完全ニ治療シテオイテカラ、S音ノ矯正ニ移ルベキデアル。吃音ガ少シデモ残ツテキルト、S音矯正ニ注意スル爲メ、吃音ガ悪化スル。騷語症治療ハS音矯正治療ニ依テ支持サレル。然シ一般的ニ云ツテ、騷語症ガアレバ、「サ」行發音ノ矯正ハ困難ノ度ヲ増ス。